

■ 2018 年度 B 日程 一般入試 法律科目 試験 「商法」問題の出題趣旨・解説

【出題趣旨】

出資の履行を仮装した場合の典型事例である「見せ金」に関する基本的理解を問う問題である。

【解説】

払込を仮装した場合の会社法 52 条の 2 第 1 項第 1 号に基づく責任が問われていることは、多くの答案が理解できていた。しかし、同条は払込が仮装であることを要件としており、同条の適用に当たっては、A の払込みが「仮装」であることを明らかにする必要があるところ、この点を明確に論じた答案は残念ながらなかった。

設問で A は、自己資金の 200 万円と乙銀行からの借入金 900 万円を併せて 1,100 万円の払込みを行い、会社成立後に、会社から 900 万円の貸付を受けている。しかし、借入金によって払込みをすれば、払込が仮装となるわけではない。会社から金銭の貸し付けを受ければ、当然に払込が仮装となるわけでもない。A の払込が仮装であるというためには、A の払込が判例（最判 42・11・17 会社百選 8 事件）のいう「見せ金」にあたり、払込として無効であることを明らかにする必要がある（なお、見せ金が払込として有効かを論じる必要はないとする教科書（会社法リーガルクエスト 39 頁）があるが、有効な払込が何故「仮装」と評価されるのか、私には理解できない）。右判例は、見せ金に当たるか否かの判断基準を明らかにしているから、その基準を本件事例に当てはめて、見せ金に該当することを明らかにする必要がある。

なお、A は出資の履行を仮装した発起人として、2 項但し書きの無過失免責が認められないことを答案に明示する必要がある。

以上